

会議録

会議の名称	男女平等参画推進委員会 平成19年度 第12回
開催日時	平成19年11月14日（水曜日） 午後7時から9時まで
開催場所	西東京市役所田無庁舎 1階102会議室
出席者	委員：青木委員、赤石委員、池田委員、虎頭委員、角田委員、荒井委員、富田委員、高木委員、中村委員、北條委員、渡辺委員 欠席：西山委員、蚊野委員 事務局：岩田係長、藤原主幹、インテージ2名
議題	1 第11回西東京市男女平等参画推進委員会会議録の確認 2 男女平等参画に関する西東京市民意識・実態調査結果について 3 その他
会議資料の名称	資料No.1 第11回西東京市男女平等参画推進委員会会議録 資料No.2 男女平等情報誌エガール掲載原稿 資料No.3 パネル展チラシ 資料No.4 フォーラムチラシ
記録方法	全文記録 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>開会</p> <p>1 <u>第11回西東京市男女平等参画推進委員会会議録の確認</u></p> <p>委員長： 第12回の委員会をはじめめる。 前回の会議録について意見・質問はあるか。</p> <p>委員： 会議録とは直接関係しないが、女性センターの愛称の募集が15日締め切りだったが結果はどうなったか。</p> <p>委員長： 会議録については他に意見はないか。では、承認とさせていただく。 女性センターの愛称について事務局から報告をお願いする。</p> <p>事務局： 17件ほど応募があり、フランス語で「平等」を意味する「パリテ」に決まった。</p>	

2 男女平等参画に関する西東京市民意識・実態調査結果について

委員長：

それでは次の議題に入る。市民意識調査の結果について何か意見はあるか。

委員：

自由意見を読んだが、立場によって違ってくると感じた。

委員：

賛否両論あるが、前回のアンケートと比べると敵視する傾向が強い。

委員：

推測だが、生活が苦しくなっていくことが背景にあるのではないか。なかなか満足できる仕事に就けない男性の苛立ちなどを感じた。

委員長：

「男女平等」の言葉の意味が共通認識になっていない、と感じた。

委員：

20代の女性でもあまりない。

委員：

違いを認めて仲良くやっっていこう、という意見が多かった。もう1つ顕著だったのが、こういうことがあること自体、知られていないこと。「エガール」も知られていないし、市のホームページの構成なども問題ではと思った。

委員長：

では、渡辺委員から意見をお願いします。

委員：

(表紙) 前は「調査報告書」だったが今回は「調査結果報告書」になっている。また、「第2回」とつけるのか。

(目次) 資料編にノンプルが入っていない。

(1ページ) フォントが統一されていない。

(2ページ以降全体) 数字が%で明示されているのに、文章中では「何割」のように大きくくくっている。全編を通じてこのような表記がされているが、どうなのか意見を聞きたい。

(3ページ) 「前回調査と比べ、希望する介護形態に関して、介護サービスだけでの介護を求める人が増えています」とあるが、サービスを利用しながら家族での介護を希望する人が圧倒的に多いので、この点も書かないと全体が見えないと感じた。

(3ページ) 「調査対象者」から「調査回答者」に、「2割以上の人」から「2割以上の女性」に。

委員：

(4ページ)49ページで「どんな理由があっても男性が暴力を振るうのはよくない」及び「女性ももっとリーダーシップを発揮したほうがよい」という意見には他の項目と比較して賛同者の率が突出しているなので、ここで特記したほうがよい。また、59ページを見ると、法律については内容まで知っている人は減っているが、西東京市の取り組み(この計画自体やエガール)については認知度は上がっているなので、そのこともポイントに含めたほうがよい。

(6ページ)(8)の文章は末尾がおかしい。

事務局：

「前回調査」という言葉を多用しているが、「前回調査」とは何かを説明しなかった。修正する。

委員：

(7ページ)グラフの語句の改行位置が不自然。

事務局：

修正可能かどうか確認して、可能ならば修正する。

委員：

(8ページ)2行目の「倍以上」とあるのは何に比べて「倍以上」なのか。

委員：

「正社員」に対してではないかと思う。語句の順番を入れ替えたほうがわかりやすいかもしれない。

委員：

「1割(14.1%)」という表現は気になった。

委員長：

全編をとおしておおよその割合を表記するようにしたからこうなったのだと思う。この表記の件についてはあとで議論したい。

委員：

では、その件以外を続けて。

(11ページ)「不可能と答えています」から「制度の利用は不可能と答えています」に。

(15ページ)「40歳男性」から「40歳代男性」に。

委員：

「代」ではなく「台」ではないか。

委員長：

どちらも使うような気がする。

委員：

(16ページ)「特に不平等感を感じていない人は増えています」というのは表現としてどうか。

(19ページ)表中の文章の句点の位置の修正

(24ページ)最初の2つの文章を「しかし」でつなく。

(24ページ)「60歳代女性で、予防法を知らない人の割合がやや高くなっています」とあるが、「知らない」というのは右側の無地のところか。

事務局：

名前は知っているが予防法までは知らない」という左側の斜線部分のこと。

委員：

了解した。25ページのグラフを見ると、確かに60歳代女性が突出している。

委員長：

逆に60歳代女性が「名前は聞いたことがある」が多いのも不思議に思える。

委員：

60歳代女性は、名前だけ知っていて予防法までは知らない人が多いということ。「名前だけ知っている」と「予防法まで知っている」の割合の合計は他の年代と大差ない。

委員：

現在の文章表現に、赤石委員の発言のような趣旨を文章に含めてもらえるといいなと感じた。

委員長：

例えば「全体で予防法を知らない」というようなこととか。

委員：

(26ページ)「その他の記載」の枠内の文章が回答者の言葉だと思うが、「大人にする」とあるが「大人になる」の意味だろうか。

事務局：

ここは基本的に原文のまま記載している。

委員：

子どもを大人にする過程での不安を訴えているのではないか。

委員：

(27ページ)「...過半数になっている」とあるが、表現を明確にすべき。

(32ページ)「6人もいました」とあるが、これは「回答者817人の中に6人も」とい

うことだと思う。また、「...いることは明らかです」より「被害の状況は深刻です」という表現のほうが適切ではないか。

委員：

実数を挙げているが、無作為抽出しているので、前回の会議でもあったように人口×割合で全体を推測できる数字があったほうがよいのではないか。

委員長：

それはあくまで推定なので、多分議論になるだろう。

委員：

推測数をだすのはアンバランスな感じがする。

委員：

(32ページ)「被害」という言葉を使っているが、暴力を受けたか否かを聞いているので「無視や大声で怒鳴られるなどの精神的暴力は」でよいのではないか。

(40ページ)30歳代女性で「さんの奥さん・お母さんとしか呼ばれない」が突出して高いのも1つの特徴ではないか。

委員：

それは30歳代の人が一番子育て中だということを表しているに過ぎないのではないか。

委員：

了解した。

委員：

関連して、40歳代男性も特徴的である。

委員：

40歳代男性の欄にも印をつけたらどうか。

事務局：

全項目機械的に一律で、先頭の「TOTAL」行と比較して差がある場合に印をつけているので、個別につけることはできない。

委員：

(41ページ)表中の文章の句点の位置の修正

事務局：

表中の文章の句点の位置の修正については、再度全体的に見直す。

委員：

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」に賛成している人が一番多いのは60歳代男性で、その息子世代の30歳代男性が突出しているのは面白い。

委員：

専業主婦率が高い層だから、一応は肯定しているのではないか。

委員：

(44ページ)「賛成」「どちらかといえば賛成」を足して何%、「反対」「どちらかといえば反対」を足して何%、という表現が先にあるべきではないか。

委員：

数値が高いほうを先に書いているのではないか。

委員：

「賛成」という言葉を先に書くのか数値が高いほうを先に書くのか決めたほうがよい。

また、「子どもが3歳になるまで家で育てるべきだと考える傾向」とあるが、「べき」なのか「ほうがよい」なのか。

事務局：

前回調査の報告書の表記をそのまま引用した。違和感があるなら修正する。

委員：

(53ページ)「男性では『つい手がでてしまうのは仕方がない』が3割前後見られます」とあるが、この文章は正確に書いたほうがよいのではないか。

事務局：

「3割」は間違い。文章は修正する。

委員：

図ではAとBの境界がわかりにくいので、見やすくしてほしい。

(53ページ)「圧倒的に」、(55ページ)「多数を占めて」の部分ははっきり記述したほうがよい。

(55ページ)「賛成しています」から「賛成が多くなっています」にしたほうがよい。また、「法改正に賛成しています」は、「法制度を整えるべき」という質問の趣旨とギャップがあるように感じる。

委員：

「20歳代、50歳代の男性で」とあるが、そんなに差はないように見えるが。

事務局：

40歳代と60歳代の男性はAに近いが多い。顕著な特徴ではないので文章は再度見直す。

委員：

(61ページ)「その他の記載」が全員男性だが、女性の前向きな意見があれば含めて欲しい。

(63ページ)このグラフには「+1」とか点数化の数字が載っている。この表だけでよいのか。また「最も」という表現はおかしい。括弧の位置が不体裁。

委員：

本文の中で「で」は不要。

(73ページ)、(81ページ)誤字あり

(84ページ)目次には単純集計とあったが、章題にも「単純集計」という語句を含めるべき。

委員長：

私からも補足する。

(69ページ)誤字あり。

(70ページ)「出生」から「出産」に。

(42ページ)前回調査の「TOTAL」は不要。

技術的に可能な修正は受けていただき、議論のあるものについて。

委員：

「割」と「%」の表記について。

事務局：

ポイントの部分ではあえて強引に四捨五入で「割」にした。「%」と併記している部分は前回調査報告書のスタイルを踏襲した。また、「約」などの表記は付けないようにしている。どのようなスタイルがよいかご意見をいただきたい。

委員長：

「割」が方針なら「ほぼ」とか「強」とかあったほうがよい。

委員：

項目のそれぞれに対しては「%」で。「できる」と「ややできる」をあわせて6割という表現が良い。「割」と「%」の併記はおかしい。

委員：

「%」で表記するなら「割」は不要。

委員長：

アンケート調査では、61.2%が大事なのか「割」でアピールしたいのか、という問題もある。

委員：

合計した数字なら「割」でよいが、個々の数字を出す場合には、折角「%」の数字があるのだからもったいない。

委員長：

統一して整理していただきたい。

また、「賛成」「どちらかといえば賛成」「どちらかといえば反対」「反対」については、数が少なくてもはっきりしている意見の数値を先に示したほうがよいと思う。

委員：

「その他の記載」については、全数が恣意的に拾ったのか。

事務局：

全部を書いているが、61ページについては、30歳代・40歳代の男性だけ「その他」の回答割合が高かったので、コメントで補足することを考えた。意見の内容が似通っていたので集約している。

委員：

状況や意識は少しずつ変化している、という気がする。設問は前回と同じだが、意識は変わっているので、その変わっているところを救いあげるところがなかったため、自由回答に流れている感じ。世の中の男性を含めて厳しくなっていて、女性だけ優遇されているのではないかという不満感を書ける部分があまりなかったのかな、と。

委員：

とても有効な調査だった。これから女性センターができるし、これを利用しない手はない。

委員：

30歳代の男性で女性も働いて欲しいという人がいる。世の中は変わってきているのかも知れない。逆に60歳代の男性は社会通念上の固定観念がしっかりしている、ということ強く感じた。

委員：

「男女平等」という言葉に平面的なイメージを持っている人が多い。この調査の項目1つ1つが「男女平等」の具体的項目で、それらについては「賛成」に振られているが、「男女平等」といわれた途端に抵抗があるように感じる。

委員：

20歳代女性が割と保守的。

委員：

白書にもあったが、回帰していて「自分を犠牲にしても家族のためにつくすのが結婚」という考え方が20歳代女性で増えている。

委員：
結婚していない人がそう思い込んでいるだけかもしれない。

委員：
どうやってこの結果を出すか。自由回答への委員の感想をホームページにアップするのもありではないか。

委員：
今後の参考にするわけだが、今までの活動の成果といえるかどうか。

委員：
暴力を受けている人は減ったかもしれない。

委員：
自由回答もホームページに載るのか。

委員長：
報告書は全部載るだろう。

3 その他

委員長：
それでは、ここから先のことについてだが、次回の委員会の作業課題はこの調査結果に基づいて計画をつくる方向でよいか。

事務局：
次回は再度、この調査結果を見ながら大枠の考え方について検討したい。その次にワーキングの進め方と活動計画と各ワーキングに分かれての打合せを行いたい。

委員長：
では、次回は調査結果をもとに大枠を考える。

以上